

⑥6 海岸津波対策事業（九十九里有料道路かさ上げ工事）

受賞機関 千葉県
千葉県道路公社

キーワード 海岸堤防と有料道路の兼用、環境保全、地域の活性化

全建審査委員会の評価ポイント

東日本大震災で津波被害を被った千葉県九十九里沿岸地域での海岸堤防整備の一環として、九十九里有料道路のうち海岸線に近接している区間を嵩上げ整備した事業。

津波対策のための海岸堤防の嵩上げに際して、海岸堤防と道路の兼用工作物である九十九里有料道路の嵩上げを選択することにより、浸水防護機能を確保するとともに貴重な砂浜と快適な走行環境の確保を実現し、環境保全及び地域活性化に寄与した点が評価された。

1. はじめに

九十九里浜は、県立九十九里自然公園の特別地域内であり、コアジサシの営巣地、ハマヒルガオの群生地が広がり、ウミガメの産卵を確認した海岸も存在する。

九十九里有料道路は、千葉県道路公社が管理、運営し、千葉県長生郡一宮町から山武郡九十九里町の17.2kmを結ぶ有料道路で、通称「波乗り道路」とも呼ばれ、九十九里浜を見ながらドライブできる観光道路の側面を持っている。

また、有料道路の起点付近には、2020年東京オリンピック・パラリンピックのサーフィン会場である釣ヶ崎海岸が存在する。

本工事は、九十九里有料道路が海岸線に近接する一部区間について、海岸堤防と道路の兼用工作物としてかさ上げしたものである。

2. 事業の概要

千葉県では、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震によって、最大震度6弱を観測するなど、県内全域を襲った強い揺れに加え、旭市など九十九里沿岸地域を中心に発生した大津波により、約2,370haの浸水被害が発生した。

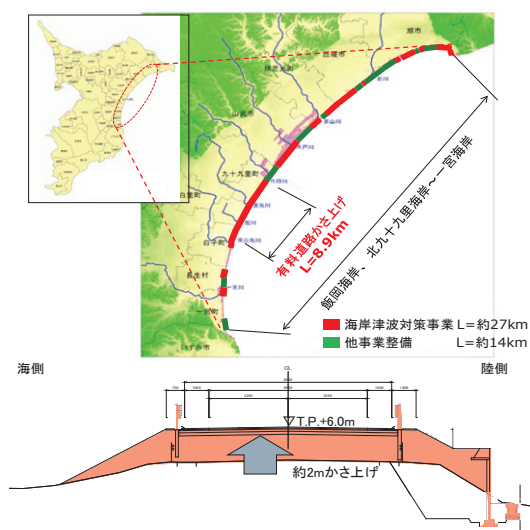
これを受け、県では数十年から百数十年に一度の頻度で来襲が想定される津波高さを設定し、九十九里沿岸の海岸津波対策事業として、T.P.*+6.0mの海岸堤防整備27km及び保安林の砂丘堤の整備14km、合計41kmの事業を実施中である。※T.P.：東京湾平均海面

3. 事業の成果

海岸堤防整備延長27kmのうち、九十九里有料道路が海岸線に近接している8.9kmの区間については、環境面（生態系の保護）、利用面（海水浴場の確保）、防護面（海岸線からの離隔距離を確保）の観点から総合的に検討し、

砂浜に新たな築堤を行わず、海岸堤防と道路の兼用工作物であった九十九里有料道路を、約2mかさ上げして、整備することとした。

これにより、貴重な砂浜を消失させることなく、浸水防護機能を向上させるとともに、眺望の向上など快適な走行環境を確保した。



有料道路かさ上げ工事概要図



九十九里有料道路かさ上げ工事完了後の状況

4. おわりに

九十九里有料道路かさ上げ工事により、眺望が良くなり、観光道路としての価値も上昇し、また、かさ上げ工事期間中に、千葉県道路公社では料金所の統廃合を行うとともに、かさ上げ工事区間外のリニューアル工事（一宮休憩所施設改修等）を実施し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、地域の活性化に寄与することが期待されている。

賛助会員 (株)近代設計、(株)東京建設コンサルタント